

平成30年度8月教育委員会 会議録

開催日時	平成30年8月22日（金） 13:30～15:00	
開催場所	町民総合会館 2階 研修室	
出席者	委員	徳山順子教育長、森綾子委員、綾野克紀委員、竹井成範委員
	事務局	貝畑和明学校教育課長、黒木克美生涯学習課長、石原知子係長、大部桂嗣主事
会議次第	<p>1 開会 教育長あいさつ</p> <p>2 議事・報告案件 (1) 早島町教育委員会共催・後援取扱い要綱の一部改正について (2) 全国学力・学習状況調査の概要について (3) 義務教育学校について (4) その他</p> <p>3 連絡 9月教育委員会について 日時：9月18日（火）15:30～17:00 場所：町民総合会館 2階 研修室</p>	
会議資料		
傍聴者	なし	
会議録作成者	大部 桂嗣	

会議内容

1 開会

教育長あいさつ

教育長：先日は、子どもと大人の意見交流会「熟議」で大変お世話になりました。感想を読んでもらったと思いますが、充実した会となりました。昨日は、夏季休業中の教員研修の最終日でしたが、先生方も充実した日々を過ごしています。若手教員研修で、テーマにそってプログラミングした、ロボホンを後ほど紹介します。26日の土曜日には、プレパークをぞうさん広場で開催します。就学前の子どもたちの遊びをコーディネートしていきます。吉備国際大学の3名の学生に来ていただき、一緒に遊ぶ中で、子ども同士のつながりや大人同士のつながりを深めていきます。本日は教育委員会後に、総合教育会議も開催

します。早島町の義務教育学校について話し合いますので、よろしくお願ひします。現在、7月豪雨の復興支援に、町の職員が倉敷の避難所に交代で対応しています。小学校からは、16万円の募金が集まり、赤十字岡山支部に送らせていただきました。福島との交流を「絆の会」がしていますが、福島からも早島が大丈夫ですかと、支援金が送られてきたようです。そのことをお聴きし、感動しました。こうした他県や人とのつながりやかかわりを大切に、町づくりに取り組んでいきたいものです。本日もよろしくお願ひします。

2 議事・報告案件

(1) 早島町教育委員会共催・後援取扱い要綱の一部改正について

大部主事：細かい文言の修正はあるが、主な改正点は、共催・後援する際に、相手が事業を変更・中止したときの対応をできるようにしたことだ。

全委員：了承した。

(2) 全国学力・学習状況調査の概要について

石原係長：全国平均を50にしたカテゴリー間の違いを見ると、小学校の算数はA問題、B問題とも全国と大きな開きがでている。中学校の数学では、A問題、B問題とも図形に課題が見られる。小学校は理科への意欲は高いが、地球生命の領域に課題が見られる。他には、記述したり、知識を活用して説明する問題においては無解答率が高くなっているのが大きな課題だ。中学校は、図形の問題の他にも、関数に課題が見られる。全体的に算数・数学に大きな課題がでている。また、中学校でも記述や説明する問題では、無解答率が高い。また、学習状況調査からは、小中ともに規範意識への肯定率が高く、地域に対するかかわりや、ボランティアなどには肯定的な回答を高い。中学校で2時間以上の家庭学習に取り組む生徒は全国平均より下回り、小中学校ともに読書時間が全国平均と開いている。家庭学習や読書に力を入れていく必要がある。

今後の取り組みは、

1. 教育委員会としては、学力・学習状況調査の分析を活用し、改善点を全教員で徹底する。ラッキー7計画の視点を踏まえた授業づくりを実践していく。カルテックや土曜はやしま塾・放課後はやしま塾を活用し、課題に応じた自主学習に取り組んでほしい。他にも、町立図書館・学校図書館の連携、英検受験のサポート、留学生との交流、ALTとの英会話など積極的に取り組んでいく。

2. 学校の取組は、めあて・まとめの質の向上、振り返りの工夫、他教科との関連、1単位の授業のタイムマネジメント、学習環境づくり、NIEの活用、家庭学習時間の確保、スタディパスポート・ボランティアパスポートの活用、個票をもとにした個に応じた改善策を児童生徒・保護者が共に共通理解していく。OJTの充実、カルテックや県教委作成の問題資料の活用、web評価システムの効果的な活用などに取り組む。

3. 保護者へのお願いは、家庭での学習習慣の確立、生活習慣の向上、家族の一員としての役割、地域の一員としての役割、夢を育てるコミュニケーションの充実、大人の率先垂範など。

教育長：先日の学力向上検討員会で、先生方から、先生方の危機感が少ないという声が上がった。授業も単純な問題しかやらせていないとか、発展的な問題がついていてもやってもやらなくてもよいという指示をしているとか。学校として、分析結果をもとにしっかりと話し合い、改善策を全教員と徹底していくことが大切である。今後は、個に応じた学習タイムを取り入れていく時間をつくる必要がある。第3回学力向上検討委員会を早い内に開き、小中一貫した取組をしていく必要がある。そして、効果的な取組は、学校全体で連携し、「そろえる実践」に取り組みたい。苦手な問題や理解できていない問題にチャレンジしようとしていないのが課題だ。

森委員：はやしま塾の児童を見ていると、カルテックの枚数をただこなせばよいと思う子どももいるようだ。苦手な問題はあまりしようとしらない現状が見られる。土曜はやしま塾の一年生の中で、一桁の足し算・引き算が苦手な子どもが目立ち、危惧している。ひらがなの絵本を自分で読めない子もいた。分かりやすい授業づくりと、繰り返しの徹底が必要だ。

教育長：教師が様々な問題に当たらせる意識をもつことが大切だ。だれもが分かる問題のあとは、習熟度別に復習のできる体制にも取り組みたい。

森委員：答えを求めるだけでなく、授業では答えの理由がわかるような教え方をすべき。

大森委員：昔は家に帰るとお爺ちゃん、お婆ちゃんがいたから勉強をしていたが、今はいない家庭も多い。放課後に勉強できる環境が少ないのも要因ではないか。

教育長：45分、50分の一単位時間の、授業の使い方を改善する必要がある。工夫した教材研究も必要であり、家庭で学習したくなるような宿題の出し方も課題である。

竹井委員：家庭学習は大切だ。全国平均や県平均より得点が低いのは、無解答が多いのも原因ではないか。

竹井委員：二極化が進んでいるのか。

教育長：算数・数学のような教科では、差が出やすい。全国調査で出されるような問題を授業の中で、教師が取り組んでいないのでは。

綾野委員：二極化の解消のために何かしているか。

教育長：放課後はやしま塾、土曜はやしま塾の活用を学校から推薦していただいている。また、カルテックの活用説明会等も行っている。

綾野委員：二極化はクラスごとか、それともクラスの中での話か。教師の教え方による問題なのか。

森委員：専科で理科が好きになった児童が増えたと言うが、算数でも、教科の面白さを伝える授業をしてほしい。

教育長：学力向上検討員会で、意見交換し理解したことを、各学校の全教員に伝えているのか。こうした場の設定が大切だ。

竹井委員：自分の学生の時の話だが、古文の面白い先生がいて、そのときは全体の古文の点が上がったが、いなくなると下がっていた。

教育長：児童生徒の各教科への興味・関心や学習意欲を高めるための教材研究が必要だ。

(3) 義務教育学校について

猪木課長補佐：小学校は10年で2億5000万の修繕・工事費、中学校は5億3000万だが、これには耐震が含まれていないので、それを含むと、小学校は4億弱、中学校6億5000万の費用が掛かっている。小学校の裏は急傾斜地危険箇所だが、場所が狭くて工事できない。

綾野委員：危険箇所がわかっているのに、何か起こってはいけない。先に対策すべき。また、この修繕費の資料には、「修繕したいができなかった」というものが含まれていないが、それもあると、いくら必要かの目安が具体的になる。

3 連絡

9月教育委員会について

9月18日(火) 15時30分～17時に開催予定。